

もとそうじゃ おうみ 元総社蒼海土地区画整理事業 に伴う発掘調査

元総社蒼海遺跡群(40)・(41) ～「上野国府のマチ」の様子～



【古墳時代の大きな56号住居跡】
1辺が約7mもある大きな住居跡です。この住居のカマドは、西側に造られていました。比較的残りが良く、とても丁寧に造られたカマドであったと思われます。土器もたくさん出土しました。

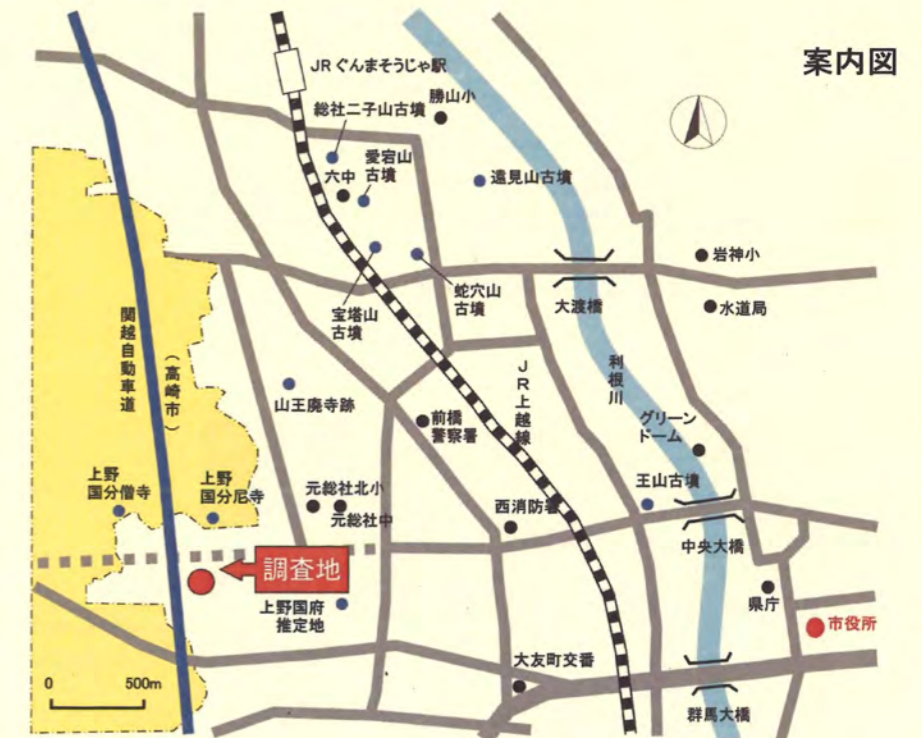
はじめに

前橋市教育委員会では、平成11年度から元総社蒼海土地区画整理事業に伴う、埋蔵文化財の発掘調査を実施してまいりました。

元総社蒼海地区は、上野国府(こうずけこくふ)があったと推定される、古代における群馬県の政治・経済・文化の拠点と考えられている場所です。

本年度の発掘調査地は、上野国分寺跡に隣接し、過去の調査でも多くの遺構や遺物が見つかっています。現時点までの調査で、縄文時代から平安時代まで、長い時代にわたる遺構・遺物が多数見つかりました。

今回の現地説明会では、発掘された遺構や遺物をご覧いただき、いにしへの時代に生きた人々に、想いを馳せてみてはいかがでしょうか。



総社古墳群・山王廃寺・国府・国分寺



★ … 元総社蒼海遺跡群(40)・(41)

5世紀	6世紀	7世紀	8世紀
● 1 遠見山古墳 前方後円墳70m		■ 4 愛宕山古墳 方墳56m・家形石棺	
		■ 5 宝塔山古墳 方墳60m・家形石棺・漆喰	
		■ 6 蛇穴山古墳 方墳43m・漆喰	
		■ 7 山王廃寺	
			■ 8 上野国府
			■ 9 上野国分寺
			■ 10 上野国分尼寺
大前方後円墳 群雄割拠の時代		大方墳と山王廃寺 古代群馬の中心	国府と国分寺 国家の形成

元総社蒼海区画整理事業に伴う発掘調査

元総社蒼海遺跡群(40)・(41)～「上野国府のマチ」の様子～

平成24年9月1日開催

前橋市三俣町2-10-2前橋市教育委員会文化財保護課

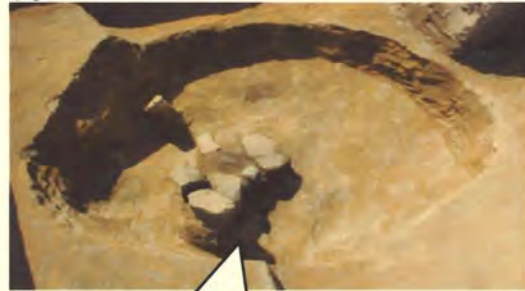
電話027-231-9531

遺跡の概要

【元総社蒼海遺跡群40】

本遺跡では、縄文時代の住居跡・土坑(どこう)、古墳時代から平安時代(10世紀)の住居跡などが見つかりました。縄文時代の住居跡は、約5000年前の前期(諸磯b式)と約4000年前の中期(加曾利E式)の二つの時期のものが見つかりました。古墳時代以降は約1200年前の前期から平安時代までの住居跡が見つかり、その中には古い住居跡が埋まったあとに建てられたものもありました。

珍しい遺構としては、鉄製品を作る鍛冶(かじ)遺構があります。また、上野国府が近くにあったことを想像させる、役人の帯の飾りである丸鞆(まるとも)も見つかりました。



⑩【縄文時代前期の土坑】
縄文時代の前期・諸磯b式と呼ばれる土器を伴う土坑が検出されました。



⑮【丸鞆の出土】
20号住居跡から丸鞆と呼ばれる、役人の帯に付けられた飾りが出土しました。上野国府が近くにあったことが想像できます。(写真の左)

※参考 写真右の丸鞆は、元総社蒼海(38)出土



⑪【鍛冶遺構】
鉄の製品(刀子など)を作成したと考えられる小鍛冶と呼ばれる遺構も検出されました。最終の製品になる前の棒状の鉄製品も保存状態よく出土しました。

【元総社蒼海遺跡群41】

今回の調査では、現時点で古墳時代から平安時代(10世紀)に及ぶ様々な時代の住居跡などが発見されています。中でも古墳時代の住居跡では、一辺が約7mもあるような大きな住居跡が見つかりました。カマドの残りも良く、遺物が多数出土しました。

見つかった住居跡は、平安時代のものが最も多く、瓦を再利用したカマドや石材を多用したカマドなど、カマドの造りがバリエーションに富んでいるのも特徴です。

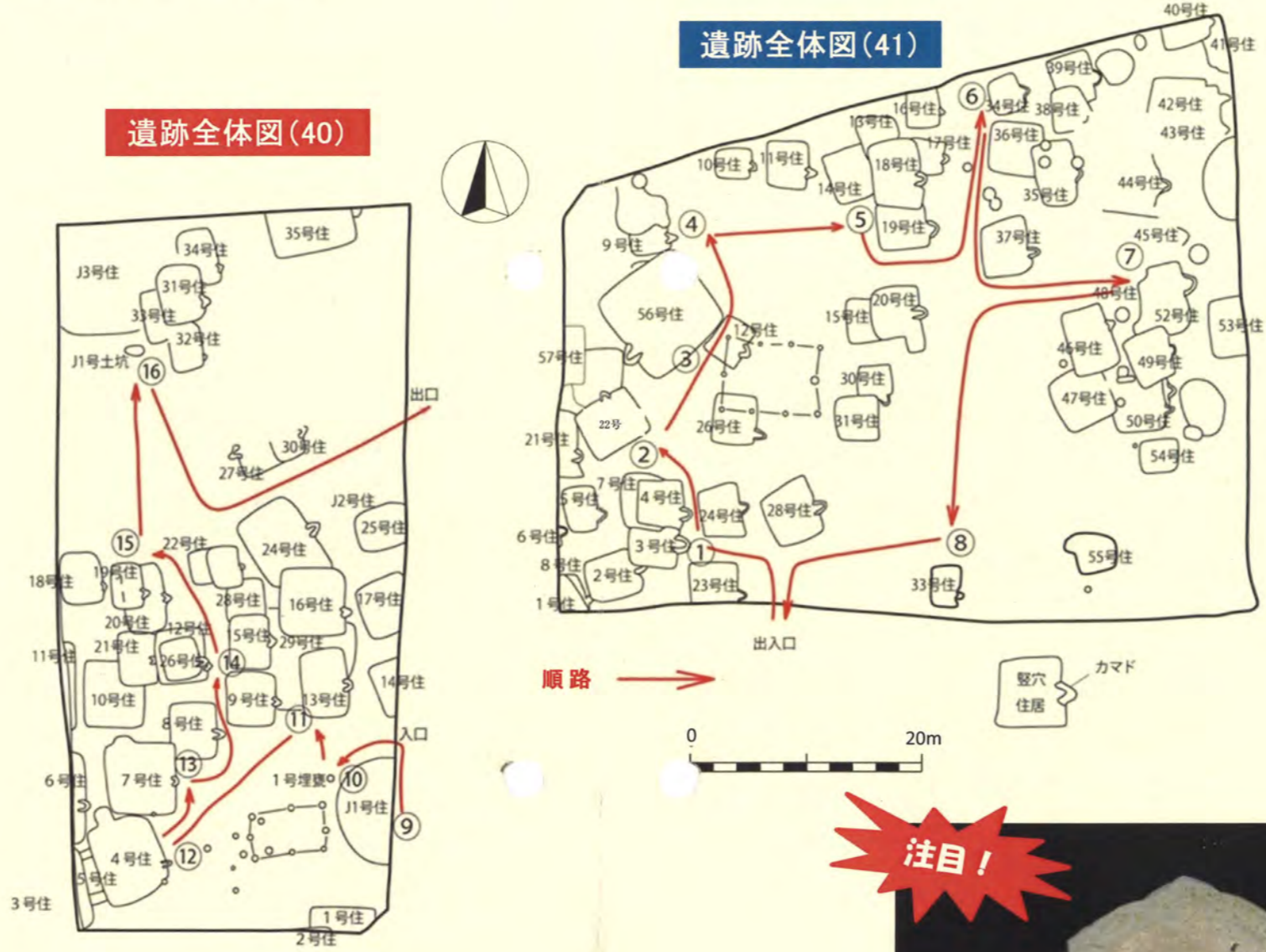
さらに、今回は奈良三彩(ならさんさい)陶器の蓋片や金の付いた土器など、とても珍しい遺物が見つかりました。



②【建て替えられた22号住居跡】
この古墳時代の住居跡には、床面が2枚あり、カマドが造り替えられました。新築時は、東側にカマドを持つ住居でしたが、その後、一回り大きくリフォームし、カマドも北側に造り替えました。



③【56号住居跡】
カマド内部や、その周辺からたくさんの土器が出土しました。



⑥【金の付いた灰軸陶器の出土】
34号住居跡から灰軸陶器(かいゆうとうき)が出土しました。金は、この器の内面に附着していました。

⑨【縄文時代中期の住居跡】
縄文時代中期・加曾利E式と呼ばれる土器がたくさん出土した住居跡です。中央付近と推定される部分からは、底を欠いた土器が、床に埋められた状態で出土しました。